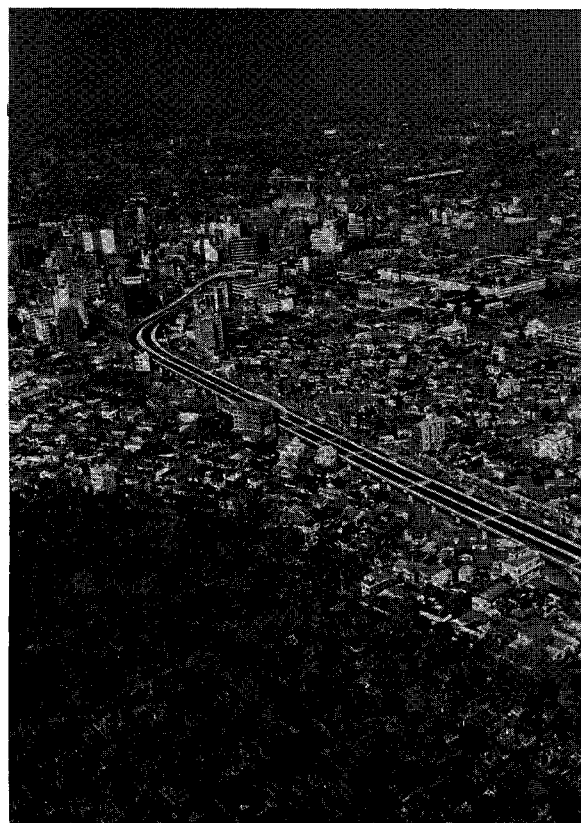


首都高速道路 5 号池袋線全線開通



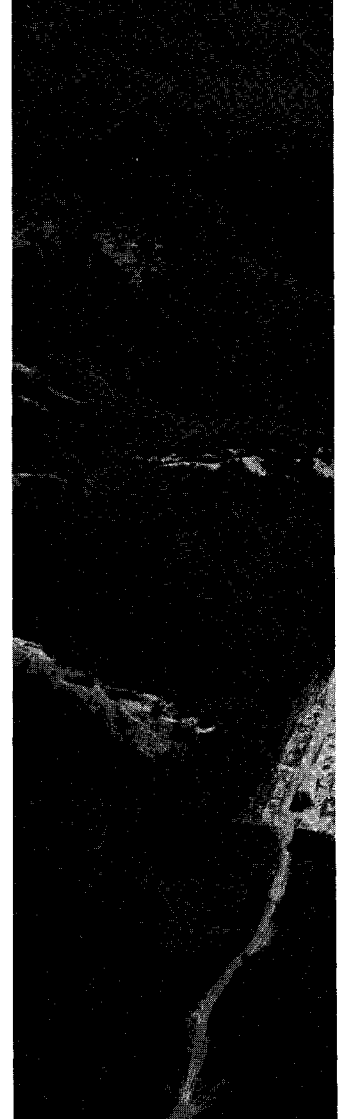
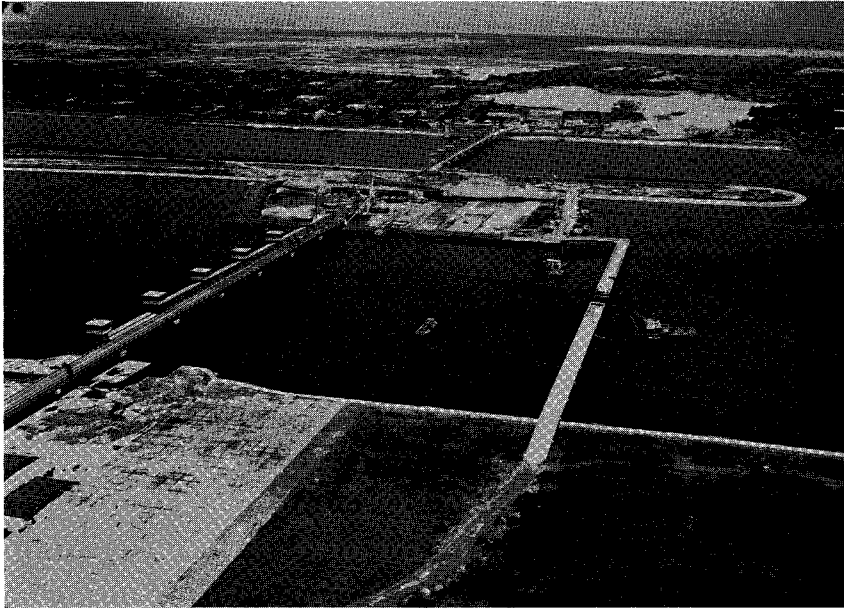
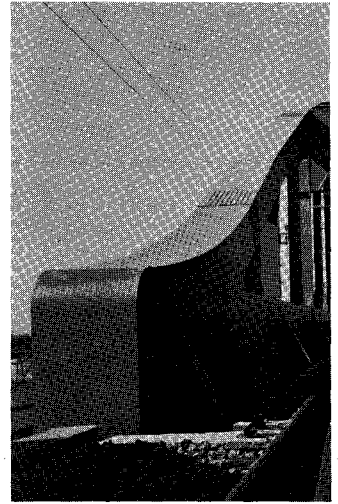
昭和 39 年に一部着工されたのち、都市土木工事特有の難問と闘いながら工事中であった首都高速道路公団 5 号池袋線がこのほど完成、昨年 12 月 19 日から供用を開始した。鋼橋部分 5.4 km, コンクリート橋部分 2.7 km・計 8.1 km の区間で、総事業費は 266 億円である。詳細は本文ニュース欄を参照されたい。

写真説明

1. 国電山手線、赤羽線・東上線を跨ぐ 5 号池袋線
2. 雑司ヶ谷付近の 5 号池袋線
3. 開通式寸景

写真提供・首都高速道路公団

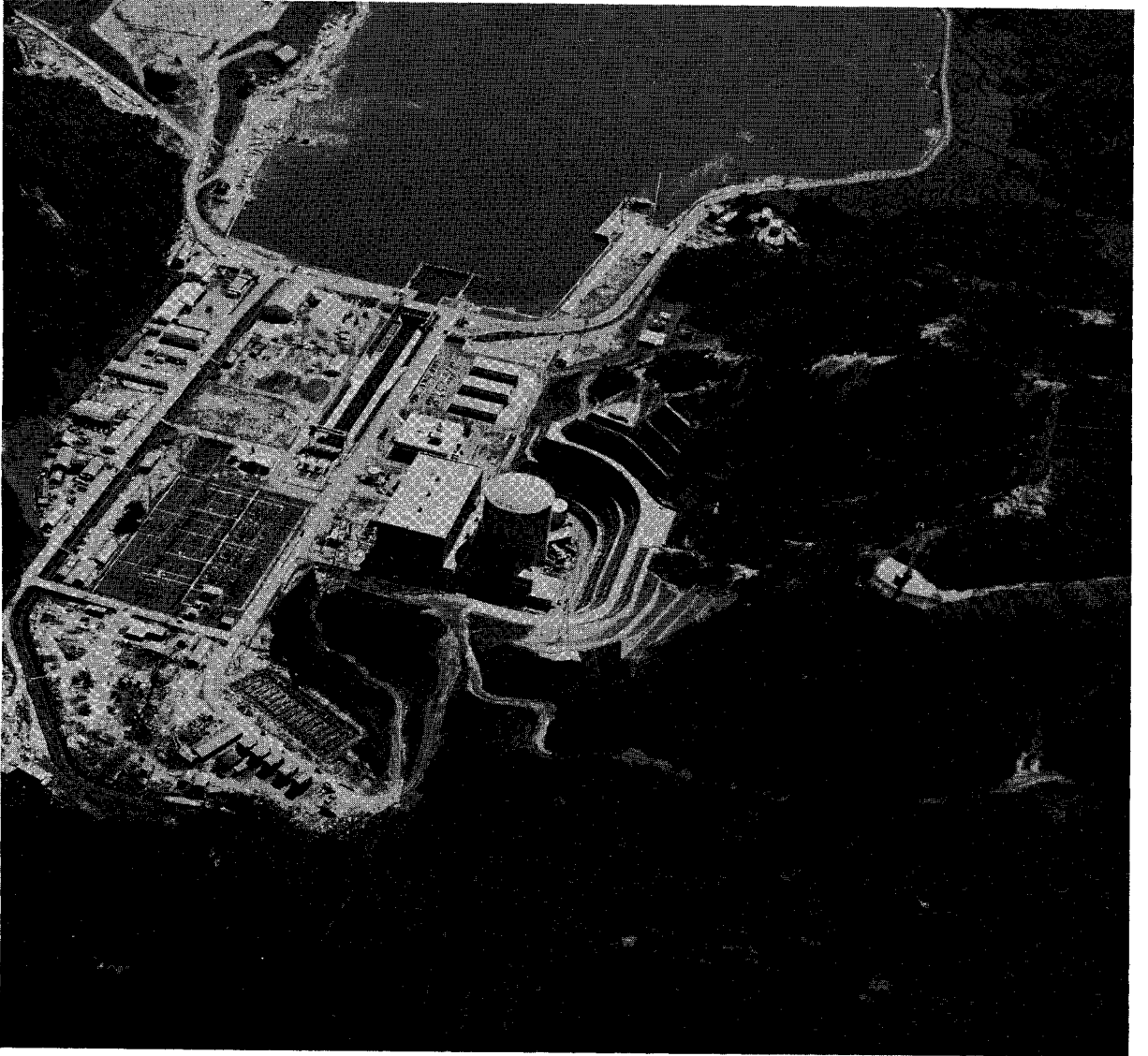
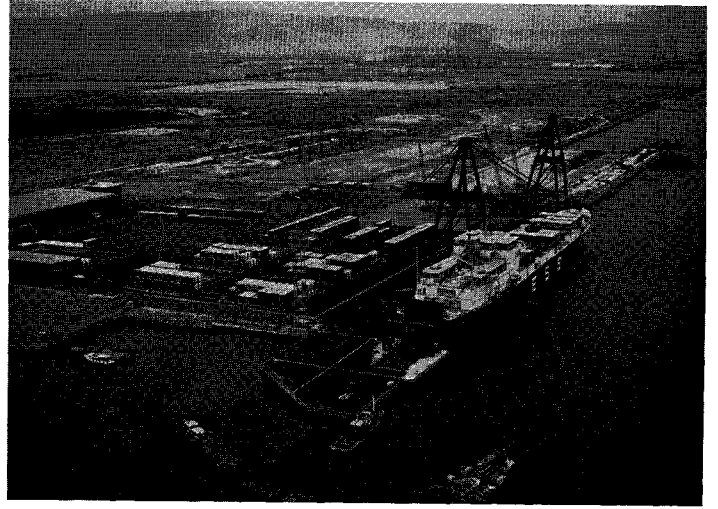
1969年は“沖繩”と“大学”で明け暮れたといえるであろう。また、名目18%の高成長、円換算62兆円の国民総生産、34億9600万ドルの金・外貨準備高（12月末）を誇示する生産活動は注目に値するが、その反動としていわゆる“公害”が多くの国民の生活・生命をおびやかすまでに高度成長を示してきている現実にも注目せねばならず、両者の共存点をどこに求めるかが、1969年を経て'70年への大きな課題ともいえる。1969年7月11日発表された建設白書は、わが国が今後進むべき方向として「福祉社会をめざす国土改造」を呼びかけており、国土建設は新たな段階を迎えようとしている、としている。高い租税負担で高い公共サービスを求めるか、従来程度の負担で現行にあまえるか、国民自身が選択すべきときであるとしている。このことは、大いに国民一人一人が考えてゆかなければならないことであると思われる。新日本製鉄が誕生するニュースを企業の国際化時代と受け取るならば、この傾向は建設界にも大きく波及してくる前ぶれであると



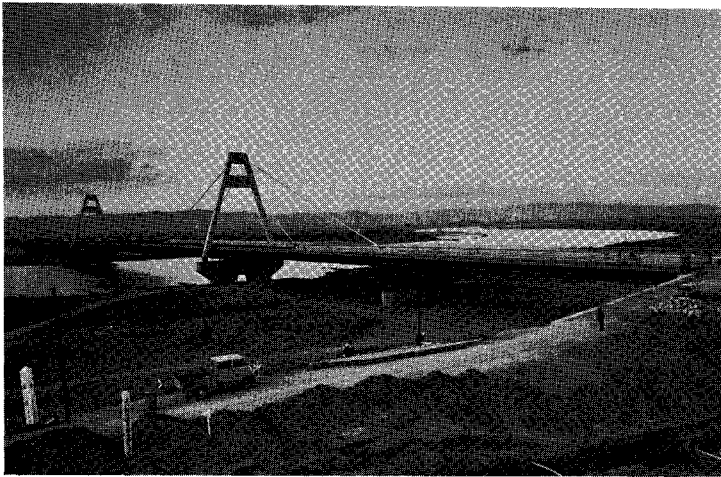
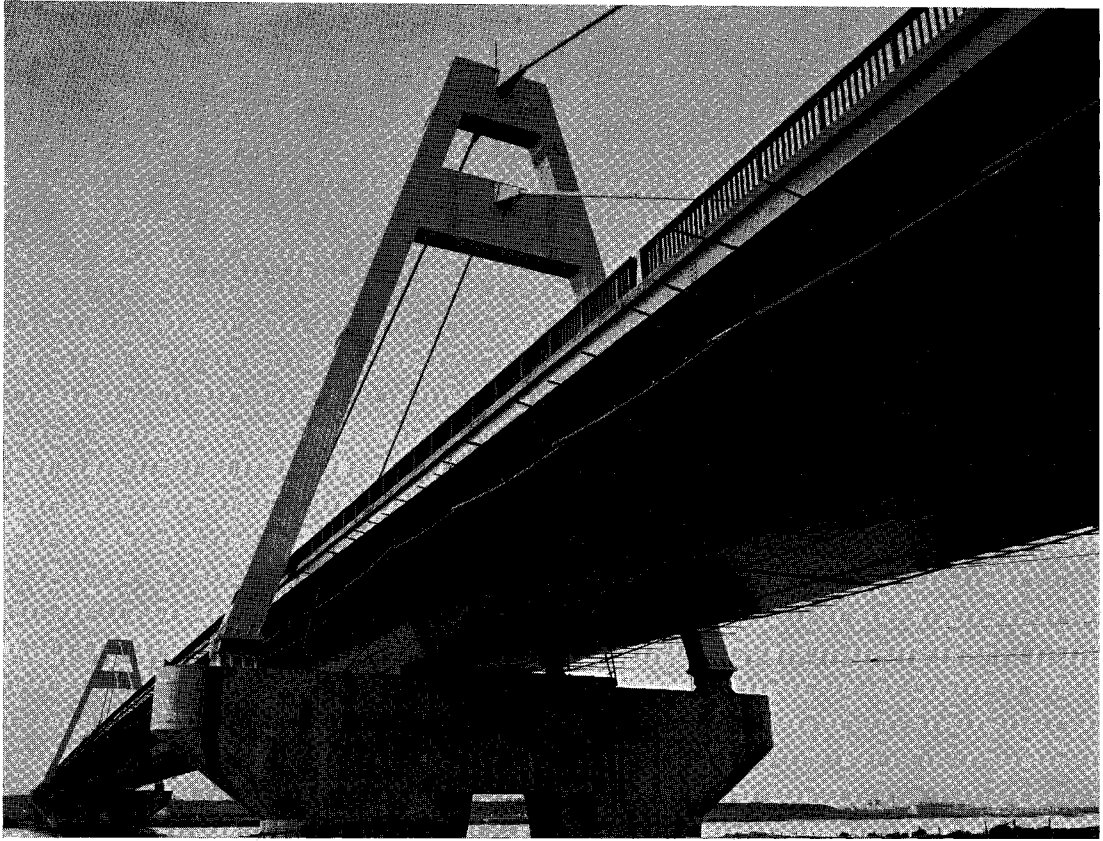
し、自から意欲的に体質を改善してゆかねばならない日々であると理解したい。その意味において、1969年の土木界の主な動きをトピック風にまとめ、'70年への資料として特集とした。

写真説明

1. 利根河口堰全景。遠方は常陸川水門である（本文特集7参照）
2. 第1江戸川橋梁を渡る東西線の車両（本文特集1参照）
3. コンテナ基地・大阪南港1号埠頭（本文特集14参照）
4. 日本原子力発電（株）敦賀発電所（本文特集11参照）



豊里大橋完成



Fan type の斜張橋として架設されるものである。主桁形状は耐風安定性を考慮して梯型箱桁が採用され、ケーブルにはプレハブ、パラレルワイヤー、ストランドが用いられ、その防錆にはプラスチックラッピングを使用し、また塔の形状はユニークな A型が採用されるなど多くの特徴を有している。この完成により、大阪市中央部と北大阪の連絡はよりスムーズとなり、産業経済への寄与、市内の交通混雑の緩和対策および万博会場への新ルートとして、その効果が大きいと期待されている。

昭和 43 年 11 月に本格的な下部工事に着工した豊里大橋は 1 年 3 ヶ月後の本年 2 月に完成をみるに至った。本橋は、大阪市東部を縦走する都市計画街路新庄大和川線が淀川を渡る箇所に設けられた長さ 561 m の河川橋梁で、その低水敷にわが国最大規模の、中央径間 216 m、幅 20.3 m の Axial girder、

内容・主旨紹介

今月号の登載記事の要旨を記してあります。切り取ってパンチカードにはりつけて整理して下さい。

特集・本年の土木界 '69 / 土木学会誌編集委員会

土木学会誌第 55 巻第 3 号, pp. 2~79, 昭和 45 年 3 月 (March 1970)

多くの専門分野を容する土木界に働く土木技術者にとって、自己の属する専門全域の動向を知っておくことは、今後の活動のためにも必要である。そこで、本年度内の主なできごとに取材して各々に解説を付し、特集とした。内容としては、① 地下鉄工事の話題、② 長大橋の話題、③ 空港の整備、④ 高速道路の話題、⑤ 座談会・鹿島港開港を語る、⑥ 進めぬ海外進出、⑦ 急がれる水資源開発、⑧ 公害対策基本法下の公害行政、⑨ 建設機械の話題、⑩ 鉄道の話、⑪ 原子力発電の開発——エネルギー問題として——、⑫ 新都市計画法制定、⑬ コンピューターを利用した情報化の傾向、⑭ 港灣計画との関連におけるコンテナ運輸問題、の 14 項からなっている。

トンネル工学シリーズ 1 第 1 回トンネル工学シンポジウム

B5判・106ページ

400円・会員特価 300円

(〒50)

トンネル用鋼アーチ支保工の設計施工について / 長大トンネルの地質 / トンネル工事における災害の実情について / 高熱トンネルの施工について / 名古屋市高速度鉄道のシールド工法について / わが国トンネル施工のすう勢と問題点について

トンネル工学シリーズ 2 最近のトンネル工学 — 工事の実例と話題 — 〈第 2 回トンネル工学シンポジウム〉

B5判・136ページ

500円・会員特価 400円

(〒50)

トンネル標準示方書制定について / 青函トンネルについて / 国鉄新丹那トンネルについて / 羽田海底トンネルについて / 富士川用水導水トンネル工事について / AN-FO 爆剤とその発破法

トンネル工学シリーズ 3 第 3 回トンネル工学シンポジウム

B5判・146ページ

1000円・会員特価 800円

(〒70)

トンネル土圧 / トンネル土圧の測定方法と現況 / トンネル用鋼アーチ支保工の強度について / トンネル掘削における余掘りの実態について / セグメントの設計について / 栗子トンネルの工事計画と施工実績について / 国鉄親不知トンネルの施工実績について / 青函トンネルにおけるウォールマイヤー式トンネル掘削機の掘削試験について / 大阪地下鉄複線型と単線型シールドの実施例と問題点 / シールド工法による駅部の施工計画について / わが国における中小口径シールド工事の現況について

トンネル工学シリーズ 4 わが国シールド工法の実施例・第 1 集

B5判・338ページ

2200円・会員特価 1800円

(〒110)

第 I 部 工事概要 / 第 II 部 設計および実績 / 第 III 部 セグメント / 第 IV 部 シールドおよび付属機械 / 第 V 部 工用機械その他 / 第 VI 部 主な図表類 / 付録 鉄道および道路・下水道・上水道・電力および通信・地下道その他に分類 158 件を収録

トンネル工学シリーズ 5 第 4 回トンネル工学シンポジウム

B5判・268ページ

1800円・会員特価 1600円

(〒100)

ソ連の地下鉄 / アメリカのトンネル工事を視察して / アメリカにおける山岳トンネル工法 / アメリカにおけるトンネル掘きく機 / アメリカにおける都市トンネル / アメリカにおけるコンサルタント業務 / アメリカにおける請負工事の諸事情について / アメリカのトンネル施工に関する新技術 / 欧州のトンネル工事を視察して / 欧州におけるトンネル請負工事の諸事情について / 欧州における山岳トンネル工法 / 欧州におけるトンネル掘進機について / 欧州のシールド工事 / 欧州における地下鉄工事 / 欧州における沈埋工事

トンネル工学シリーズ 6 第 5 回トンネル工学シンポジウム〈最新刊〉

B5判・124ページ

1000円・会員特価 900円

(〒100)

六甲トンネルの砕破帯突破について / トンネルの掘きくに伴う地表沈下測定例について / 牧の原地すべり地区のトンネル施工について / 紅葉山線・新登川トンネルの蛇紋岩区間の施工法と膨張土圧の測定結果について / 京葉線・多摩川河底沈埋トンネルについて / 大阪地下鉄の沈埋管工事—堂島川と道頓掘川の施工例について— / 近鉄難波線の大型機械化シールドの施工例について

10 構造用軽量骨材シンポジウム

昭和38年10月25日・開催

B5・96 500円 会員特価 400円(〒50円)

1. 軽量骨材を用いるコンクリートにおける問題点(国分)
2. 構造用軽量骨材に関する二、三の実験(後藤・杉山・満木)
3. 人工軽量骨材を用いたコンクリートの熱的性質について(徳田・伊藤)
4. 軽量コンクリートの乾燥収縮と耐熱性について(丸安・小林・伊藤)
5. 人工軽量骨材を用いたコンクリートの力学的性質に関する実験結果(西沢)
6. 軽量骨材コンクリートの付着強度(樋口・西郷)
7. 軽量コンクリートの水密性および軽量鉄筋コンクリート桁の曲げおよび、せん断試験について(村田)
8. PC桁に使用する軽量コンクリートの打込み方法についての試験(菅原)
9. 人工軽量骨材を用いたコンクリートの諸性質に関する研究(山崎・西岡・国本)
10. 人工軽量骨材を用いたPC桁に関する実験(西岡・国本・宮地・長尾・奥平)
11. 軽量骨材を用いたPC橋梁における設計上の問題点について(野口・小池)
12. 合成桁における軽量橋梁と一般橋梁の比較設計—主としてアルミニウム合金と一般橋梁の比較設計—(山岡)
13. 人工軽量骨材を用いたコンクリートの一実験(小川・阿部)

24 第2回 構造用軽量骨材シンポジウム

新刊

昭和44年4月1日・開催

B5・132 1100円 会員特価 950円(〒80円)

1. 軽量骨材コンクリートにおける問題点について(国分・小林・岡村・山本)
2. 人工軽量骨材の破砕試験について(小林・趙・河原)
3. 軽量骨材粒の強度および耐久性(村田・神山)
4. 人工軽量骨材の吸水特性とコンクリートの性質(西林・湯本)
5. 軽量コンクリートの諸性質(割沢・西郷・浅沼)
6. 軽量骨材コンクリートの加圧によるコンシステンシーの急変とその防止策(後藤・外門・杉山・小林)
7. 人工軽量骨材コンクリートの諸性質におよぼす乾湿の影響(小林・伊藤)
8. クリープの環境湿度依存性について(岡田・小柳・阪田)
9. 人工軽量骨材コンクリートの圧縮疲労性状(小林・伊藤・芝田)
10. 人工軽量コンクリートの耐硫酸塩性に関する二、三の考察(西林・片岡・清水)
11. 惣領橋床版の軽量コンクリートに関する研究(四本・中村・西岡)
12. 軽量レデーミクストコンクリートの運搬について(村田・神山)
13. 鉄道構造物における人工軽量骨材コンクリートの適用(尾坂・小池・鳥居)
14. 鉄筋コンクリート短柱の中心軸圧試験—普通および人工軽量骨材コンクリートの場合—(六車・渡辺)
15. 人工軽量骨材を用いた鉄筋コンクリートばりの長期材令における曲げ実験(長滝・米山)
16. 軽量鉄筋コンクリート桁のせん断強度について(松貝)
17. 人工軽量骨材を用いた鉄筋コンクリート部材の曲げせん断強度および、ねじりせん断強度(神山)
18. 人工軽量骨材を用いたPC桁の定着部の強度と補強方法(西沢・高野)
19. 高荷重履歴を受ける軽量PCはりの変形と耐力(六車・富永・高矢)
20. 人工軽量骨材を用いたPC桁およびRC桁のねじり特性および曲げ疲労強度に関する試験(尾坂・橋田)
21. 軽量PC桁の曲げおよびせん断(国分・松本・村田)

会 告

社団法人 土 木 学 会

行事案内	月 日	行 事 名	場 所	備 考
本 部	5月29日(金)	第56回通常総会	東 京	3号会告2頁参照
	4月11日(土)	映 画 試 写 会	土 木 学 会	3号会告5 "
	4月18日(土)	海洋開発シンポジウム	土 木 学 会	3号会告5 "
	3月26日(木) ~27日(金)	土質試験法に関する講習会	土 木 学 会	3号会告13 "
3月23日(水)	青函トンネル工事と北欧の冬季施工制度講演会		札 幌 市	3号会告7 "
北 海 道 支 部	5月12日(火)	東北支部総会	仙 台 市	3号会告7 "
東 北 支 部	4月23日(木)	中部支部総会	富 山 市	3号会告7 "
中 部 支 部	3月17日(火)	都市廃棄物の処理と処分講習会	大 阪 市	2号会告7 "
	4月24日(金)	講習会「物理探査の土木工事への応用」	同	2号会告8 "
	4月27日(月)	「工事管理の問題点を採る」研究会	同	3号会告8 "
	5月10日(日)	支部年次学術講演会	東大阪市	3号会告8 "
そ の 他	3月25日(火)	日本工学会第27回見学会	東 京	2号会告12 "
	4月7日(水)	第15回材料強度と破壊国内総合シンポジウム	同	3号会告12 "
	5月8日(金) ~9日(土)	構造物の耐風性に関する第1回シンポジウム	同	3号会告9 "
	5月19日(火) ~20日(水)	第1回安全工学国内シンポジウム	同	1号会告15 "
	6月4日(木) ~5日(金)	第8回接着研究発表会	大 阪 市	3号会告12 "
	6月6日(土)	表面と接着討論会	同	3号会告12 "
お 知 ら せ	<ul style="list-style-type: none"> ■土木学会論文報告集購読料の改正について ■論文報告集予約申込みについて ■第4回国土開発映画コンクール作品募集 ■土木学会論文報告集へのご投稿について ■Coastal Engineering in Japan, 1970 掲載原稿の公募について ■第6回トンネル工学に関するシンポジウム開催のご案内 ■構造物の耐風性に関する第1回シンポジウム開催ならびに参加募集 ■国際岩の力学会の新会員募集について ■第3回日本地震工学シンポジウム参加募集 			3号会告2 " 3号会告2 " 3号会告2 " 2号会告3 " 3号会告6 " 3号会告6 " 3号会告9 " 3号会告10 " 3号会告11 "

評 議 員 選 挙 告 示

昭和45年度評議員選挙を各支部ごとに4月末日までに執行いたします。

各支部の評議員新定数は、45年1月31日現在における所属会員数(規則第18条により)に比例、按分した結果つぎのとおり。

支 部	北 海 道	東 北	関 東	中 部	関 西	中国四国	西 部	合 計
評議員定数	6	6	41	11	23	6	7	100

理 事 な ら び に 監 事 選 挙 告 示

昭和45年度理事ならびに監事の選挙を45年4月末日までに執行いたします。

第 56 回通常総会開催のお知らせ

昭和 45 年の通常総会は、つぎの日程で東京において開催いたしますのでお知らせします。

1. 期 日：昭和 45 年 5 月 29 日（金）
2. 場 所：麴町会館（東京都千代田区平河町 2-6、地下鉄赤坂見附下車 5 分）
3. 次 第：総会（事業報告／決算報告／名誉会員推挙／土木学会賞の授与／新役員の紹介）・特別講演・映画・懇親会

昭和 45 年度から論文報告集購読料の改正について

土木学会論文集は 161 号（昭和 44 年 1 月）からその名称を論文報告集と改め、土木工学に関する計画、調査、設計、施工、維持、管理等についての学術論文と技術論文、および学会の各専門委員会の研究報告などを広くかつ積極的に掲載することになり、したがってページ数も増して内容、外観ともに面目を一新することになりました。

わが国の経済は高度成長を続けておりますが、反面、賃金、諸物価もまた著しい値上がりが続いております。論文集の発行に伴う多少の赤字はやむを得ないかも知れませんが、現状は大幅の赤字となり学会の財政にも影響するに至りましたので 4 月より下記のように改正いたします。物価高に悩んでおられる折、購読料の改正をすることは、まことに心苦しい次第ですが、諸事情ご賢察下され、会員各位のご理解とご協力を切にお願い申し上げます。

改正年間購読料（昭和 45 年 4 月～46 年 3 月） 2 000 円（外地の場合は 12 ドル）

昭和 45 年度論文報告集予約申込みについて

◀ 申込締切 4 月 30 日 ▶

昭和 45 年度論文報告集（昭和 45 年 4 月号～46 年 3 月号）購読ご希望の方は、年間購読料 2 000 円（外地の場合は 12 ドル）を添えて、4 月 30 日までにお申込み下さい。従来購読されている方もお忘れなくお申込み下さい。期限後のお申込みは翌年度分となりますからご注意ください。

第 4 回 国土開発映画コンクール作品募集

土木学会は過去 3 回にわたり「国土開発映画コンクール」を開催いたしておりますが、この業績にかんがみて、今年も映画コンクールを開催し、土木技術者および土木以外の人達にも最近の土木技術普及のあゆみを広く周知させ、あすの国土開発に寄与したいと考えておりますので、ふるってご応募下さるよう、また、関係の向きにおすすめ下さいますようお願い申し上げます。

これまでの優秀作品は土木学会「フィルムライブラリー」として活用しており、年間の視聴者は 1 万名以上にのぼっております。今後も今回の優秀作品を含め土木学会はもちろん、一般の活用を推進する予定であります。

コンクール応募要領

1. 内 容：国土開発に関し、主として土木事業の PR および土木技術を中心としたもの
2. 規 格：16 mm フィルム（1968 年 10 月以降完成の作品に限る）
3. 締 切：1970 年 9 月 30 日
4. 申 込 先：社団法人 土木学会編集課宛（申込書は請求して下さい）（東京都新宿区四谷 1 丁目 電話 東京 351-5130）
5. 審 査：土木学会内 映画審査委員会
6. 賞 賞：入賞作品約 6 編を選びその内から最優秀賞 1 編、優秀賞 2 編、準優秀賞 3 編を決定し、賞状ならびに賞牌を贈る（ただし該当作品のない場合は変更することがあります）。
7. 発 表 会：1970 年 11 月 20 日

追 記：① 作品は完成次第ご連絡下さい。審査期日は追ってご連絡いたします。② 選定映画審査会におきまして「選定」されたフィルムのうち、応募要領に合致するものにつきましては、コンクール候補作品と致したいと思います。コンクール審査過程におきましてフィルムを再提出して頂きますので、よろしくご配慮下さい。

土木学会論文報告集へのご投稿について

土木学会論文集編集委員会

従来の「論文集」においては、投稿する原稿は土木工学に関する理論、実験などによる研究の報文、または工事の創意ある調査、計画、設計、実施などの報文、研究ノートおよび論文集掲載論文に対する討議とされておりましたが、論文という名称にとらわれて原稿の傾向がやや一方に偏するきらいがみられ、またその数も必ずしも多いとはいえない状態でした。

土木学会論文集編集委員会では、論文集の充実、査読の迅速化などについて種々検討しておりますが、昭和44年1月、第161号よりその名称を「論文報告集」と改め、その体裁も一新いたしました。また、昭和44年8月号でお知らせしましたように「欧文論文集」を刊行することとし、投稿要項もその一部を改訂いたしました。

また、査読方法としては、編集委員会外にも査読委員を依頼し、査読の公正、正確を期するとともに、その迅速化についても、種々その方式を検討しております。

このように新たな「論文報告集」として発足するに当たって、従来の投稿要項を改訂することになり、現在「投稿の手引き」を検討作成中でありますが、完成までになお日時を必要としますのでここに論文報告集の性格についてお知らせするとともに先にお知らせしました土木学会論文報告集の投稿要項をとりあえず別記のように改訂致します。

(1) 論文報告集の意義

土木学会論文報告集は土木工学に関して会員が行なった研究の成果をお互いに交換して、さらに討議を通じて、各自の専門学術技術の進歩と相互の利益に役立ちあう場所と考えることができます。したがって論文報告集で扱われる研究の目的が学会の目的と一致しており、主として土木学会の会員に関心が持たれる題材を扱っているもの、かつ会員相互間に建設的討議をひきおこすようなものがのぞましいといえるのであります。

(2) 論文報告集の内容

論文報告集に発表される論文は本質的に土木工学に関する計画、調査、設計、施工、維持、管理等についての学術論文と技術論文、および学会の各専門委員会の研究報告といたします。従来ともすれば論文集として学術論文の点から権威づけられてきましたが、今回技術論文の報告および学会委員会報告をも積極的に受け入れることにいたしました。なお、従来あった研究ノートの区分は廃止になります。

(3) 論文として要求される条件

論文は投稿要項に示してあるように論文としての体裁を整えていることがまず必要です。また質的な条件としてはつぎのような項目のいずれかを具備していることが必要です。すなわち

- 1) とりあげた対象に新しい特色があること
- 2) 用いた手法に新しい特色があること
- 3) まとめ方、結論は多少不十分でも、非常に示唆的で大きな発展性があること
- 4) 今後の実験、設計、工事、調査などにとりいれる十分な価値があること
- 5) 多方面に利用できる新しい成果を提示していること
- 6) 工学上の判断をする上で有用な情報を与えていること
- 7) 考え方や手法の発展の歴史的考察を行ない、将来の問題点の指摘を行なっていること
- 8) 対象とした事柄や用いた手法に新しさはなくとも、そこに総合的な成果を示して、工学上有用な資料となりうるものを多く含んでいること

など、であります。

(4) 討議について

論文の中に示された研究内容については発表者が読者に対して責任をもつものであり、読者が学術上、技術上の異論をもつ場合には、当然討議によって批判すべきものであります。またこのような批判が建設的な意見を通じて行なわれる時に研究の進歩がなされると考えます。また対象としてユニークであれば当然読者の間に大きな関心をよびおこし専門を同じくするものによって討議がなされるはずであります。このような観点から、今後討議を活発に行きたいと考えますので、編集委員会から会員の方々に討議をお願いすることも計画致しております。

以上のような論文報告集の意義と内容と条件から今後多くの投稿論文と討議を期待いたします。

土木学会論文報告集投稿要項

1. 投稿者：本会会員，ただし連名の場合は一人以上が会員であること。
 2. 原稿提出期日：随時
 3. 原稿の書き方について
 - 3-1 土木学会論文報告集への投稿に際しては必ず和文・欧文題目・会員区分・氏名・学位・勤務先・役職名・連絡先を明記して下さい。
 - 3-2 投稿原稿は和文・欧文（当分の間英・独・仏のいずれかに限る）のどちらでも結構です。
 - 3-3 投稿原稿は原則として，土木学会原稿用紙（横書 25 字×14 行）を使用して下さい。ただし欧文の場合は A 4 判タイプ用紙にダブルスペースでタイプ打ちして下さい（刷上り 1 ページは和文の場合は 6 枚，欧文の場合は約 600 ワード）。
 - 3-4 提出部数は正原稿（図・写真とも）および複写 3 通（図・表・写真とも）とします。
 - 3-5 図・表について：正図はそのまま製版できるよう白か透明の紙に縮尺を考慮して必ずスミ入れして，著者の責任において完全な図面（線図・文字・符号などすべてスミ入れする）を提出して下さい。表は原則として活字で組みますので原稿のままです。ただし，表の中に図が入る場合は図面のミスミ入れして下さい。
 - 3-6 写真について：写真は原則として手札程度に焼付けしたものを提出して下さい。
 4. 論文報告の長さ：論文報告 1 編の長さは原則として図表を含み刷上り 12 ページ以内とします。
 5. 和文要旨について
 - 5-1 和文要旨は学会誌論文紹介欄に掲載しますのでそれだけで論文報告の内容の大略が把握できるように記述して 4 部提出して下さい。
 - 5-2 和文要旨は図・表・写真を含み刷上り 1 ページ以内として本文のページ数には含みません。なお，図・表・写真に本文のものを使用する場合はその旨明記して下さい（重複して提出される必要はありません）。
 6. 討議について
 - 6-1 討議は土木学会論文報告集に掲載されたものを対象とします。
 - 6-2 討議原稿の受け付けは論文報告集掲載後 6 ヶ月以内とします。
 - 6-3 討議原稿の書き方については 3. に準じて下さい。ただし，原稿（図・表・写真があればそれも含む）の複写は 1 部とします。
 7. 査読について：土木学会論文集編集委員会では，日本全国の土木工学の各分野における専門家に査読を依頼します。投稿原稿は原則として 3 名の専門家に査読を依頼し，その結論によって掲載の可否を決定します。専門分野は大別してつぎのごとくとなっておりますので査読部会を明記して下さい。
 - 第 1 部会：応用力学・構造力学・構造工学・橋梁一般・鋼橋等
 - 第 2 部会：水理学・水文学・河川工学・港湾工学・海岸工学・発電水力・衛生工学等
 - 第 3 部会：土質力学・基礎工学・岩盤力学等
 - 第 4 部会：道路工学・鉄道工学・交通計画・都市計画・国土計画・測量等
 - 第 5 部会：土木材料・土木施工法・コンクリートおよび鉄筋コンクリート工学等
 なお，内容において部会相互に関連するものはそれぞれ内容に関連する部会で取扱うこととします。
 8. 抜刷について：原稿には原稿料は支払いませんが，登載論文の抜刷は著者に 50 部まで差し上げます。それ以上希望の方は実費をいただきますからあらかじめ希望部数を原稿にお書き入れ下さい。
 9. 著作権：論文報告集掲載論文の著作権は著作者に属し本会は編集出版権をもつものとします。
- 付 記
- ① 以上の点に関し疑問の点がありましたら，土木学会論文報告集編集係にお問合せ下さい。
 - ② 論文報告の校正は原則として 1 回だけ著者にみていただくこととなりますが，時期・方法などはそのつど著者に直接ご連絡いたします。
 - ③ この投稿要項は昭和 45 年 4 月 1 日以降受付原稿に適用します。なお，同日以後は上記の条項を満たしていない新規原稿は受けられなくなりますのでご諒承下さい。

映画試写会開催について

土木学会視聴覚教育委員会では、毎月第2土曜日に映画試写会を行なっておりますので、多数お誘い合せの上ご観賞下さいますようご案内致します。

記

1. 場 所：土木図書館講堂（東京都新宿区四谷一丁目 国電・地下鉄四谷駅下車）
2. 日 時：毎月第2土曜日 14.00～17.00 4月は11日（土）です。
3. 上映映画：「美浜のあけぼの」「噴火湾横断海底同軸ケーブルの誕生」「2万ボルト架空配電」
なお、上映映画は都合により変更することがありますのでご了承下さい。
4. 参加費：無料、土木関係以外の方も歓迎致します。なお、5月は都合により中止致しますのでご了承下さい。

海洋開発シンポジウム

◀ 4月18日（土） ▶

人間活動の場を海洋に広げようとするムードが全世界的に高まりつつある現在、土木学会としても“人間活動の場の基盤施設の整備と、それに必要な技術の開発は土木工本来の目的である”とのことから積極的に海洋土木の分野につき調査研究を実施すべく海洋開発委員会を設置いたしました。海洋開発委員会では、その研究活動の一つとして海岸工学委員会の協力のもとに下記によるシンポジウムを開催し、斯界進展に資することにいたしましたので多数の参加を希望いたします。

1. 期 日：1970年4月18日（土）
2. 時 間：9.30～16.00
3. 場 所：土木学会土木図書館講堂
4. 申込方法：参加希望者は、官製はがきに①氏名、②勤務先、③連絡先を明記のうえ、4月10日までに土木学会事業課宛お申込み下さい。満員の際はお断りすることもありますので、お早めにいただければ幸いです。
5. 参加費：500円（講演集代を含む）当日会場にてお払込み下さい。
6. プログラム：（予定ですので多少変更があるかも知れません）

9.30～9.45 開会挨拶	土木学会海洋開発委員会委員長 本 間
9.45～10.45 海中構造物の設計（波浪の取扱い）	
10.45～11.45 海中橋脚の基礎	
11.45～12.45 昼食休憩	
12.45～13.45 海中測量	
13.45～14.45 海水汚染	
14.45～15.45 人工漁礁	
15.45～16.00 閉会挨拶	

 なお、各講演時間には質疑応答の時間を含みます。

Coastal Engineering in Japan, 1970 掲載原稿の公募について

土木学会海岸工学委員会では Coastal Engineering in Japan, 1970 に掲載する原稿を公募致します。提出される原稿は第16回海岸工学講演会に発表されたものを原則としますが、それ以外のものでも結構です。下記要項をご参照の上5月末までに原稿をご提出下さい。

なお提出された原稿は海岸工学委員会で査読のうえ必要に応じて修正をお願いすることがありますのでご了承下さい。

投 稿 要 項

- ① 投稿される原稿はすべて英訳し、タイプ用紙にダブルスペースでタイプ打ちすること。
- ② 図面はそのまま製版にとれるよう線図、文字、符号等すべてトレーシングペーパー（白か透明）にスミ入れし、著者の責任において完全な図面を提出して下さい。

③ 原稿1編当りの長さは、刷上り10ページを原則とし(刷上り1ページは約600ワード)、掲載原稿はすべて刷上り1ページあたり1500円の掲載料をいただきます。なお、規定ページを超過した分については1ページ当り2500円負担していただきます。掲載料は本文刊行後請求いたします。

④ 校正は著者校正とし、校正の時に原稿および図面を大幅に変更した場合は組替え料(実費)をいただきます。

⑤ 著者には本書一冊を差し上げますが、別刷は希望者のみ実費で差し上げます。

⑥ 1970年版の予定は下記のとおりです。

○原稿締切:1970年5月末日/○著者校正:1970年9月以降/○刊行予定:1970年末

注:第16回海岸工学講演会の節 Coastal Engineering in Japan に掲載申込みを行なった方も上記要項をご参照のうえ原稿を提出して下さい。

第6回トンネル工学に関するシンポジウム(国際シンポジウム)

開催のご案内 —Tunnel Symposium '70—

世界的なトンネル工事の増大(急激に進む都市交通機関の地下鉄化および高速道路網や鉄道網の発達ならびに都市中心部の地下街化に基づく)に伴い、各国におけるトンネル工学およびトンネル工事一般に対する関心が高まりつつある一方、各種科学技術の進歩に基づき、トンネル技術の革新も次々と行なわれつつあり、技術の見地のみならず、社会経済的立場からも各国の協力の必要が痛感されて来ています。

すでにOECD(欧州経済協力機構)の事務局はこの世界的すう勢に鑑みて各加盟国政府に対して、トンネル工学および施工技术(これに伴う社会経済的計画も含めて)の国際的協力を提唱し昨年来準備をすすめており今年6月ワシントンにおいて政府機関ベースの国際トンネル会議を開催されることになりました。

一方わが国も周知のように山岳国でかつ島嶼国であるための平地にとぼしく今後の経済発展に即応するための各種の交通機関の整備を始め、都市開発その他の各種の建設計画の逐行にあたりトンネル建設にまつこと絶大であり、現在施工中および計画中のトンネル計画は無数といえます。

土木学会はこのように年々増大するトンネル工事の重要性に着目し、昭和37年にトンネル工学委員会を設置して以来、トンネル標準示方書やシールド工法指針の制定を始め数々の委託研究を行なうとともに、昨年までに5回のトンネル工学に関するシンポジウムを開催するなどトンネル技術の改善に努めて来ましたが、このたび万博の日本開催を契機として9月に開催する第6回トンネル工学に関するシンポジウムの規模を拡大して各国専門家の参加を求めてトンネル工学の国際シンポジウムを開催し、各国専門家と情報意見の交換をはかり相互協力の体制を固めトンネル工学一般の発展に資したいと考え昨年来準備をすすめております。

シンポジウムは下記の日程で東京において開催されますが、このシンポジウムには米・独・英・オランダから著名なトンネル工事の経験者が6名参加し、わが国のトンネル専門家とともにそれぞれの専門分野の報告をすることになっており、そのほか数十名の各国のトンネル専門家が参加する予定です。国内からも多数の方々が参加されるようご案内いたします。なお、詳細なプログラム参加方法等についてはおってお知らせします。

1. 日 時:1970年9月14日(月)、15日(火)、16日(水)
2. 会 場:東京文化会館(台東区上野公園)
3. 会 費:7000円
4. 交 歓 会:1970年9月14日(月)夜/会場:パレスホテル/会費:3000円

人工軽量骨材コンクリート設計施工指針(案)

内 容:1章 総則/2章 軽量骨材/3章 軽量骨材コンクリートの品質/4章 軽量骨材の取扱い/5章 配合/6章 練りませおよび運搬/7章 コンクリート打ちおよび養生/8章 試験/9章 設計に関する一般事項
付 録:1 骨材中に含まれる粘土塊量の試験方法/2 軽量粗骨材の浮粒率試験方法/3 構造用軽量細骨材の比重および吸水量試験方法(案)/4 構造用軽量粗骨材の比重および吸水量試験方法(案)

体 裁:B6判 53ページ 定 価:300円 会員特価:250円(〒50)

申 込 先:土木学会 東京都新宿区四谷一丁目

北海道支部行事案内 (郵便番号 060 札幌市南 1 条西 2 丁目・勸銀ビル 5 階)
電 0122-25-7038

青函トンネル工事と北欧の冬季施工制度講演会

◀ 3 月 25 日 (水) ▶

1. 日 時: 1970 年 3 月 25 日 (水) 13.20 開会
2. 場 所: 札幌婦人会館 3 階ホール (札幌市北 2, 西 7, 道警向い)
3. 講演内容:
 - ① 13.30~14.40 北欧の冬季施工制度と港湾事情 北海道開発局港湾計画課課長補佐 田 中 敦 幸
 - ② 14.40~15.50 青函トンネル工事について (スライド上映解説)
日本鉄道建設公団青函トンネル調査事務所所長 北 原 正 一
4. そ の 他: 入場無料・多数聴講歓迎

東北支部行事案内 (郵便番号 980 仙台市二日町 18-25・丸七ビル)
電話 0222-22-7244

昭和 45 年度東北支部総会

◀ 5 月 12 日 (火) ▶

1. 日 時: 1970 年 5 月 12 日 (火) 15.00~17.00
2. 場 所: 宮城県建設会館 4 階 中の間
仙台市上杉一丁目 4-20 電話 25-8851
3. 議 題: ① 昭和 44 年度事業報告および決算報告
② 昭和 45 年度事業計画および予算の報告
③ 役員改選の報告

◎この会告をもって総会開催の通知といたします。なお総会后 17.30 分より懇親会を催します (会費は 1000 円です)。準備の都合がありますので、総会ならびに懇親会に参加の方は 5 月 9 日までにお知らせ下さい。

中部支部行事案内 (郵便番号 450 名古屋市中村区笹島町 1-18・名古屋鉄道管理局施設部)
工事第 1 課内 電話 052-551-8111 内線 266

昭和 45 年度中部支部総会

◀ 4 月 23 日 (木) ▶

1. 日 時: 1970 年 4 月 23 日 (木)
2. 場 所: 富山県富山市県民会館 4 階 401 号
3. 総 会: 13.00
 - ① 開 会 旧幹事長
 - ② 旧支部長挨拶
 - ③ 新支部長挨拶
 - ④ 会長挨拶
 - ⑤ 会務報告 旧幹事長
 - ⑥ 特別講演 立山トンネル工事について 立山黒部貫光KK専務取締役 四十万 小 祐
 - ⑦ 映画 (ビデオ) 立山の四季/常願寺川災害記録
 - ⑧ 懇 親 会 宇奈月 (桃源) 18.00/会費 2000 円 (宿泊料とも)
 - ⑨ 見 学 会 富山新港周辺工事 (宇奈月出発 8.30)
 - ⑩ 申 込 み 4 月 4 日 (土) までに土木学会中部支部あるいは富山県土木部道路建設課へ申し込んで下さい。なお懇親会出席ご希望の方は会費をそえること。

関西支部行事案内 (郵便番号 537 大阪市東成区中道元町1丁目149番地)
電話 06-981-2510, 振替口座 大阪 82599 番)

(1) 関西支部年次学術講演会 (昭和 45 年度)

◀ 5 月 10 日 (日) ▶

1. 日 時: 1970 年 5 月 10 日 (日) 9.00~17.00 の予定
2. 場 所: 近畿大学理工学部 電話大阪 (06) 722-1144
東大阪市小若江 321 近鉄大阪線長瀬駅下車徒歩約 10 分
3. 講演題目および講師: 学会誌 4 月号に掲載します。
4. 講演概要頒布: 論文抄録集 (B 5 版, オフセット印刷) をつぎのとおり頒布いたします (ただし 800 部限り, 申込先着順)。
正会員 200 円, 学生会員 100 円, 非会員 500 円, 送料 100 円
講演者 (○印) 無料
5. 聴 講: 無料, 来聴歓迎
6. 申込方法: 講演概要希望者は 4 月 18 日 (土) までに勤務先, 連絡先, 会員の種別, 氏名および講演会に出欠を明記 (様式随意) し, 上記講演概要代金および送料 (当日会場で受取り希望者は送料不要) を添えて土木学会関西支部へお申し込み下さい。

(2) 「工事管理の問題点を探る」研究会

◀ 4 月 27 日 (月) ▶

(第 1 回) —官公企業体からの提起—

建設工事の大規模化, 複雑化と多量生産化, 技術の高度化と近代化は近年著しいものがあり, これに対処するための一助として当関西支部では昭和 44 年 3 月および 6 月に工程管理に関する講習会を開催いたしました, さらにその近代化を妨げるもの, またより効果的な方法等を認識する必要があります, そのためには, 現実の問題についてあらためて検討し直す立場での一連の研究を行なうことが考えられますので, 第 1 回としてつぎのとおり企画いたしました。今回は提起者からのそれぞれの立場における現況・体制・工程・品質等の問題点に関する一括発言と参加者からの随時発言によるパネル ディスカッション方式といたし, 関係者各位の積極的なご参加をお願い申し上げたく, 期待する次第であります。

1. 日 時: 1970 年 4 月 27 日 (月) 13.30~16.30
2. 場 所: 大阪科学技術センター 8 階小ホール 電話大阪 (06) 443-5321
大阪市西区靱 1 丁目 118 番地 (地下鉄四ツ橋本町下車北へ 150 m 靱公園北東角)
3. 問題点提起者および司会

開 会 挨拶	土木学会関西支部長	野	瀬	正	儀
問題点提起者	近畿地方建設局企画部技術管理課長	成	田	久	夫
	阪神高速道路公団工務部工務第一課長	今	井	宏	典
	大阪府西大阪防潮工管所中之島工区長	須	山	修	次
司 会	京都大学教授工学部土工学教室 工博	吉	川	和	広
	(社) 建設コンサルタンツ協会大阪支部庶務幹事	柳	田	保	男
開 会 挨拶	土木学会関西支部幹事長	岡	田		清
4. 定 員: 100 名 (先着順)
5. 参 加 費: 無料, 参加歓迎
6. 申込方法: 参加希望者は勤務先, 連絡先および氏名を明記 (様式随意) し 4 月 11 日 (土) までに土木学会関西支部へお申し込み下さい。参加証をお送りします。

(3) 講習会「物理探査の土木工事への応用」

◀ 4 月 24 日 (金) ▶

- 主 催: 土木学会関西支部・協 賛: 物理探査技術協会・土質工学会関西支部・日本鉱業会関西支部
1. 日 時: 1970 年 4 月 24 日 (金) 10.00~16.00
 2. 場 所: 大阪科学技術センター 4 階 401 号 電話大阪 (06) 443-5321
大阪市西区靱 1 丁目 118 番地 (地下鉄四ツ橋本町下車北へ 150 m 靱公園北東角)
 3. 題目と講師:

開 会 挨拶	土木学会関西支部長	野	瀬	正	儀
10.00~11.00 ① 弾性波探査の基礎	関西大学教授工学部 工博	谷	口	敬	一
11.00~12.00 ② 弾性波探査の応用	京都大学教授防災研究所 理博	吉	川	宗	治

13.00~14.00	③ 弾性波探査の実用例	鹿島建設(株) 土木工務部主任研究員	雑 喉 謙
14.00~15.00	④ 電気探査の理論と解析法	京都大学教授工学部 工博	吉 住 永 三 郎
15.00~16.00	⑤ 電気探査の実用例	京都大学助手工学部 工修	菅 野 強
	閉会挨拶	土木学会関西支部幹事長	岡 田 清

4. 定 員: 150 名 (先着順)

5. 参 加 費: 主催・協賛学協会会員 1300 円 (テキスト代を含む)

ただし講習会当日は 1600 円となりますので、期限内に前納して下さい。

非会員 1600 円 (テキスト代を含む)

6. 申 込 期 限: 1970 年 4 月 8 日 (水)

7. 申 込 方 法: 参加希望者は勤務先、連絡先、氏名および会員の種別(所属学協会名)を明記(様式随意)し、上記参加費を添えて土木学会関西支部へお申し込み下さい。

参加者には参加証をお送りしますから当日は必ずご持参下さい。参加証のない人は入場をお断りします。

(注) 都合により講師の順序に変更があるかも知れませんので、ご了承下さい。

(付) テキスト頒布について

土木工事における土中水の扱い方	頒価	1000 円	送料	80 円
工程管理(演習問題解答付)	"	1000 円	"	100 円
工事の安全対策	"	700 円	"	80 円
写真測量とその応用	"	800 円	"	80 円
土木構造物の振動と安全性	"	1000 円	"	80 円

上記テキストご希望の方は頒価に送料を添えて土木学会関西支部へお申し込み下さい。

構造物の耐風性に関する第 1 回シンポジウム開催ならびに参加募集

‘構造物の耐風性に関する第 1 回シンポジウム’を関係学協会の共催のもとに下記により開催し、国内の研究者、学者の研鑽と交流および研究情報交換とあわせて相互の親睦をはかることになりました。

つきましては、会員各位には下記要領によりふるってご参加下さるようご案内いたします。

共 催: 電気学会・土木学会(今回の幹事学協会)・日本学象学会・日本建築学会・日本鋼構造協会

1. 開催期日: 1970 年 5 月 8 日(金)~9 日(土)の 2 日間

2. 会 場: 土木学会土木図書館講堂(東京都新宿区四谷 1 丁目・国電、地下鉄四ツ谷駅下車徒歩 3 分・電話(351)5138)

3. 参加費: 1500 円(論文集代を含む。ただし郵送希望の場合は送料を含め 1700 円となる。)

4. 定 員: 200 名

5. 参加申込要領:

(1) 申込方法:

a. B5 判以下適宜用紙に「構造物の耐風性に関する第 1 回シンポジウム参加申込み」と明記し、① 参加者氏名、② 勤務先および職名、③ 連絡先住所、④ 所属学協会名、⑤ 論文集事前入手希望の有無を必ず記載し、参加費 1500 円または 1700 円(現金書留)を添えて土木学会(幹事学協会)にお申し込み下さい。

b. 論文集は 4 月上旬に刊行の予定です。論文集を事前入手ご希望の方は、4 月 10 日までに送料 200 円(書籍小包速達、梱包料等)を加算して、1700 円を送金して下さい。

(2) 申込期限: 1970 年 4 月 30 日(ただし論文集事前入手希望者は 4 月 10 日を期限とする。)

(3) 申 込 先: 郵便番号 160 東京都新宿区四谷 1 丁目 土木学会内 “構造物の耐風性に関する第 1 回シンポジウム” 係

(4) そ の 他:

a. 4 月 10 日まで申込まれた方で、論文集を事前入手ご希望の方へは、刊行次第論文集をお送りいたします。

それ以外の方へは、参加券および論文集引換券を送付いたしますので、当日ご持参の上、受付にてお引換え下さい。

b. 原則として参加申込みの取消しがありましても、参加費の払いもどしはいたしませんのでご了承下さい。

c. 締切期日前でも定員になり次第申込みを締切りますからなるべく早めにお申込み下さい。

6. 懇 親 会:

下記により懇親会を開催いたしますから、参加ご希望の方は会費を添えてシンポジウム参加申込みと同時に申し込み下さい。

ただし、申込み順に受付満員になり次第締切ります。

- (1) 日 時：5月8日(金) 18.00～20.00
 (2) 会 場：土木学会土木図書館5号室
 (3) 会 費：1000円
 (4) 定 員：50名程度

7. プログラム

第1日：5月8日(金)

9.30～9.40	開会挨拶	構造物の耐風性に関する第1回シンポジウム組織委員会 委員長 平 井 敦
9.40～10.10	特別講演-1 地形性強風について(気流の収束と剝離)	日本気象学会 相 馬 清 二
10.10～10.40	特別講演-2 送電用鉄塔の耐風設計	電気学会 七 里 義 雄
10.40～11.00	(1) 霞が関超高層ビル周辺の風の特異性 東海大学 荒川秀俊・気象庁 ○相馬清二・堤敏一郎・気象庁 江口 博・常岡好枝	東京工業大学 日 野 幹 雄
11.00～11.20	(2) 徳島県那賀川海岸における強風の観測	日本大学 ○塩谷 正雄・国鉄 新井 秀雄
11.20～11.40	(3) 強風のスペクトルについて	東京工業大学 日 野 幹 雄
11.40～12.00	(4) 山岳地域における強風の特性について	京都大学 ○光田 寧・藤谷徳之助・住友電気工業 松原一郎
12.00～12.20	(5) 海面上の風の分布	東京工業大学 ○片岡 真二・日野 幹雄
12.20～13.20	昼食・休憩	
13.20～13.40	(6) クレーンに釣ったPC板等の風荷重について	鹿島建設 ○小林 正二・吉田 正邦
13.40～14.00	(7) 風の垂直分布を考慮せる角柱の風圧に関する研究	東北大学 亀 井 勇
14.00～14.20	(8) 屋外実験による変動風圧の性状に関する研究	鹿児島大学 立 川 正 夫
14.20～14.40	(9) 霞が関超高層ビルでの風圧観測	旭 硝 子 ○三好 俊二・井田 金彦
14.40～15.00	(10) 中四幹線海峡横断鉄塔の耐風設計について	電源開発 金 子 喜 八 郎
15.00～15.20	(11) 500 kV 送電用鉄塔の風荷重	東京電力 山 岸 啓 利
15.20～15.40	(12) 鳴門海峡横断送電線の耐風設計	関西電力 村 野 正 男
15.40～15.50	休 憩	
15.50～16.10	(13) カルマン渦による円柱の振動について	三菱重工業 山口富夫・白木万博・○梅村直・松井友二
16.10～16.30	(14) 振動円柱の非定常空気に力に関する研究	三菱重工業 笠口展宏・田中博喜・○高原茂・松井友二
16.30～16.50	(15) 二自由度フラッターとしての円柱のうず励振	九州大学 中 村 泰 治
16.50～17.10	(16) 下関火力鉄塔支持型煙突の振動について	中国電力 角 本 直 人
17.10～17.30	(17) 鉄塔支持型煙突の風による振動の測定と解析	北海道大学 酒井忠明・芳村 仁・○薄木征三・秋田大学 色部 誠

第2日：5月9日(土)

9.30～10.00	特別講演-3 鋼構造協会における耐風調査研究活動について	日本鋼構造協会 仲 威 雄
10.00～10.30	特別講演-4 建築物設計用風圧力の歴史的展望	日本建築学会 亀 井 勇
10.30～11.00	特別講演-5 吊橋の耐風性について	土木学会 平 井 敦
11.00～11.20	(18) 剝離流フラッター	清水建設 大築志夫・東京大学 ○鷲津久一郎・富沢治利・吉田光治
11.20～11.40	(19) スロットをもつ平板のフラッター現象に関する二、三の考察	京都大学 ○白石 成人・浅沼 秀弥
11.40～12.00	(20) 空気流中で振動する平板の安定性	東京大学 東 原 紘 道
12.00～13.00	昼食・休憩	
13.00～13.20	(21) 桁高、幅員比の小さい閉断面箱桁の吊橋のフラッターに関する研究	三菱重工業 坂 田 弘
13.20～13.40	(22) 風の渦による橋げたの振動	東京大学 伊藤 学・○田中 宏
13.40～14.00	(23) トラス補剛吊橋の耐風性について	建設省 大久保 忠良・○櫻波 義幸
14.00～14.20	(24) 不規則気流による吊橋の振動に関する研究	三菱重工業 笠口展宏・坂田 弘・○田中博喜
14.20～14.40	(25) 長大吊橋の架設時の耐風安定性について	三菱重工業 山口富夫・○白木万博・福沢 清・伊藤敏一・田中博喜
14.40～15.00	(26) 調和的に変動する風の発生に関する基礎研究	九州大学 河島佑男・三菱重工業 ○田中博喜・九州大学 藤本信弘
15.00～15.10	休 憩	
15.10～15.30	(27) 強風時における 500 kV 送電鉄塔の挙動の実測と検討	電力中央研究所 高野 博・○前野 陽治
15.30～15.50	(28) 鉄骨トラス型テレビ塔の風による振動について	京都大学 石崎 滉雄・○室田 達郎
15.50～16.10	(29) パラボラアンテナ面内に作用する変動空気に力に関する研究	三菱重工業 小川重夫・笠口展宏・坂田 弘・○田中博喜
16.10～16.30	(30) 早大理工学部1号館に作用する動風圧の測定と解析	早稲田大学 松井源吾・建設省 牧野 稔・早稲田大学○永井亮一・磐田正晴
16.30～16.50	(31) 強風時の早大理工学部1号館の応答実測とその解析	早稲田大学 竹内盛雄・松井源吾・建設省 牧野 稔 早稲田大学 永井 亮一・○風間 了・新谷 真人
16.50～17.10	(32) 風による架空送電線の運動と荷重	電力中央研究所 坂本雄吉・藤倉電線○大月 晃
17.10～17.20	閉会挨拶	

国際岩の力学会 (International Society for Rock Mechanics.

略称 I.S.R.M.) の新会員募集について

岩の力学研究連合委員会

国際岩の力学会 (I.S.R.M.) の参加国は現在 37 ヶ国、会員数 2835 名で、各国に国内委員会が設置されつつあり、日本も国内委員会 (現 50 名の会員) を 1969 年に設置して承認されております。

会員としての恩典は、現在のところ以下の諸点の主なるものでありますが、将来会員数が増えるにつれて、より一

層恩典の範囲は広まることも予想されます。

- (i) 定期刊行物 News (約 15~20 ページ) 年 4 回の配布
- (ii) 定期刊行雑誌 "Rock Mechanics" 購入の割引
- (iii) 会員名簿の配布 (年 1 回)
- (iv) I.S.R.M. 主催のシンポジウム, コンgress等への参加費の割引
- (v) その他情報の交換

当連合委員会(土質工学会, 日本鉱業会, 日本材料学会, 土木学会(幹事学会)の4学会の協力で設置)で, 日本学術会議力学研究連絡委員会岩の力学分科会の実質的な活動すなわち岩の力学に関する国内情報の交換および国外関連機関との連携活動の一部として I.S.R.M. 国内会員に対する必要事務を行なっております。I.S.R.M. では現在 1970 年度(1月~12月まで)の会員を募集中でございます。

当連合委員会では, 昨年度からたびたび会員募集の告示を行なっておりますが, 本年度の新会員を下記により募集いたしますので, この機会に I.S.R.M. に関心を持たれている方々は, 奮ってご入会下さい。

記

- 1. 申込および照会先: 土木学会事業課(幹事学会・東京都新宿区四谷1丁目, 電話 東京(351)5139)
- 2. 申込および照会方法: 電話またははがきで申込まれば, おり返し入会申込書を送付いたします。
- 3. 会 費: 年間 2000 円の予定(入会希望者が多数を数える場合は, 会費を低減することができる予定です。)
- 4. 申込締切期日: 1970 年 3 月 31 日
- 5. そ の 他: 外国の本部宛の入会手続き, 会費の払込み等は当連合委員会が一括して 4 月中に行なう予定であります。

第 3 回日本地震工学シンポジウム(1970)の開催と発表論文の募集

日本地震工学シンポジウムは, 1962 年に第 1 回が開催され, 1966 年の第 2 回について, 本年秋その第 3 回が開催されることになりました。このシンポジウムは, 世界地震工学会議の中間年ごとに催され, わが国において広い分野にわたる研究集会としての大きい意義をもつと同時に, そのプロシーディングスは, 国際的にもきわめて高水準にあるものとして高く評価されております。

今回の第 3 回日本地震工学シンポジウム(Third Japan Earthquake Engineering Symposium-1970)は, つぎのような要領によって開催し, 海外研究者の有志にも参加できるよう門戸を開くとともに, 国内の地震工学研究者, 技術者の研鑽および研究情報交換の場にいたしたいと存じますので, 会員各位には下記規定をご参照のうえ, ふるってご応募下さい。なお, 土木学会において毎年開催しております"地震工学研究発表会"は, 1970 年は開催いたしませんのでご了承下さい。

主 催: 地震学会・土質工学会・土木学会・日本建築学会

(1) 開催予告

- 1. 日 時: 1970 年 11 月 17 日(火), 18 日(水), 19 日(木), 20 日(金)
- 2. 場 所: 東京(第一生命ホールおよび東京商工会議所ホールの予定)
- 3. シンポジウムの内容: 論文発表, パネル討論および見学
- 4. パネル討論: テーマ「地震時における地盤の挙動および地盤と構造物の相互作用」について行なう。
- 5. 見 学 会: 国立防災科学技術センター大型振動台(筑波)

(2) 発表論文の募集

- 1. 発表論文の内容: 地震工学に関するもの。最近の研究に属するものが望ましいが, 既発表のものを含んでもさしつかえない。
- 2. 応募の方法:
 - a. 論文提出希望者は, 1970 年 5 月 15 日までに, 所属学会, 氏名(ローマ字付記), 勤務先(英文付記), 職名, 連絡先を明記のうえ, 邦文約 800 字または英文約 400 語の内容梗概を, 当学会または今回の幹事学会である下記に提出する。
土質工学会: 東京都港区西新橋 1-13-5 (東亜別館内)
 - b. 論文の応募は, 共著のものを含み, 1 名につき 2 編以内を原則とする。ただし, 論文の発表は 1 名につき 1 題を原則とするので, 共著論文の場合は発表者を明記する。
 - c. 発表論文の採否は, 応募全論文数, 発表時間等をも勘案してシンポジウム運営委員会が決定し, すみやかに応募者に通知

する。

- d. 採択された論文の著者は、1970年7月末日までに、論文の原稿に投稿料1編につき3000円を添えて、当学会または幹事学会に提出する。
- e. 論文原稿の体裁は、採否の通知と同時に採択された論文の著者に連絡するが、用語は日本語または英語とし、日本語の場合は10000字(B5判、7ページ)程度、英語の場合は4000語(B5判、8ページ)程度以内に収まるよう、所定の用紙にタイプ印字する形式となる予定である。プロシーディングスはこの原稿をオフセット印刷して、シンポジウム開催時に配布し、シンポジウム後、討論その他を別冊として印刷配布する。

第15回材料強度と破壊国内総合シンポジウム

◀ 4月7日(火) ▶

1. 共 催：日本学術会議強度と破壊委員会、ほか7団体
2. 協 賛：土木学会、ほか10団体
3. 日 時：1970年4月7日(火) 9.15~17.35
4. 場 所：石川県播磨重工工業豊洲総合事務所4階ホール(東京都江東区豊洲2-3)
5. 参 加 料：無料
6. テキスト：750円
7. 申 込 先：郵便番号980 仙台市大町1-1-13 東活ビル内 日本金属学会(電話 仙台 23-3685)
なお、詳細は上記へお問い合わせ下さい。

第8回接着研究発表会講演募集

1. 主 催：日本接着協会ほか、関連学協会
2. 日 時：1970年6月4日(木)、5日(金)
3. 会 場：大阪科学技術センター
4. 特別講演：2題
5. 研究発表：10分 討論10分
6. 研究発表の内容：接着に関連があるすべての研究
(A) 物性/(B) 界面現象/(C) 合成/(D) 接着加工/(E) 分析/(F) 試験法/(G) その他
7. 申込締切：3月20日(必着)
8. 申込方法：研究発表申込書を送付して下さい(申込書は自作で可、透明コピー用紙に黒インキで書くこと)。申込書には下記の事項を明記して下さい。
(A) 演題/(B) 研究者(氏名、勤務先、住所、電話、発表者に○印)/(C) 講演内容(200字程度、目的、方法、結果)/(D) 分類(物性、合成、加工など)
9. 講演要旨締切：4月30日
申込者には所定の写真印刷用原稿用紙をお送りします(1480字詰原稿用紙2枚)。
10. 申込取消：プログラム編成に差し支えますので、1日も早くお願いします。
11. 申 込 先：郵便番号550 大阪市西区江之子島 大阪府立工業奨励館内 日本接着協会年会係 電 大阪(06)443-1121 内線280
12. 東京連絡先：東京都目黒区大岡山 東京工業大学高分子工学科(畑研究室内) 日本接着協会関東支部 電 東京(03)726-1111 内線2121

“表面と接着” 討論会講演募集

1. 主 催：日本接着協会ほか関連学協会
2. 日 時：1970年6月6日(土)(第8回接着研究発表会の翌日)
3. 会 場：大阪科学技術センター

4. 特別講演：1題
5. 一般研究発表：
 - 講演 15分 討論 15分
 - 表面と接着に関係があるすべての研究——表面の化学的、物理的、機械的性質、界面現象、表面処理、Weak Boundary Layer, Transcrystalline, Morphology, Topography, 破壊の場所、凝集破壊か界面破壊か、レオロジー、力学、測定法、試験法、その他
 - 系統的に1つのテーマにまとめたもの。既発表の報告を含むことは差し支えない。
前日の第8回接着研究発表会で発表した報告を組込んでよい。
6. 申込締切：3月20日(必着)
7. 申込方法：申込書(自作で可、透明コピー用紙に黒インキで記入すること)に下記事項を明記、郵送のこと。
(A) 演題/(B) 研究者(氏名、勤務先、住所、電話、発表者に○印)/(C) 講演内容(200字程度、目的、方法、結果)
8. 講演要旨締切：4月30日(必着)
申込者には所定の写真印刷用原稿用紙をお送りします(1480字詰原稿用紙6枚以上)。
9. 申込取消：プログラムの編成に差し支えますので、1日も早くお願いします。
大阪市西区江之子島 大阪府立工業奨励館内
10. 申込先：日本接着協会“表面と接着”討論会係 電 大阪(06) 443-1121 内線 280
11. 東京連絡先：東京都目黒区大岡山 東京工業大学高分子工学科(畑研究室内)日本接着協会関東支部 電 東京(03)726-1111 内線 2152

土質試験法に関する講習会

◀ 3月26日(木) ~ 27日(金) ▶

土質試験法(土質工学会発行)が大幅に改訂となったことにもない、土質実験指導書(土木学会発行)も45年新版を目下編集途中であります。このときにあたり、工業高校土木科教員および一般の方を対象につきの要領で講習会を開催いたします。設備の関係上、定員を厳守しますので、お早目にお申込み下さい。

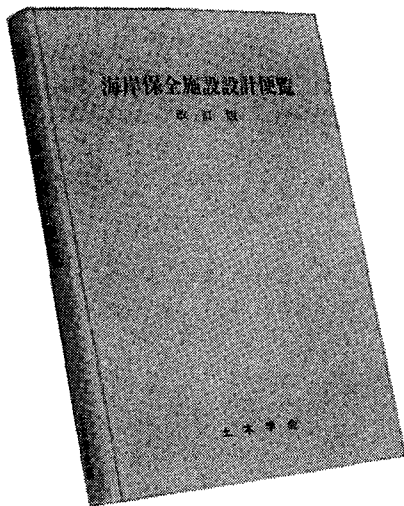
1. 期 日：1970年3月26日(木)、27日(金)
2. 会 場：土木図書館講堂(東京都新宿区四谷1丁目/国電・地下鉄とも四谷駅下車・外濠公園内/電話 03-351-5130)
3. 共 催：東日本高等学校土木教育研究会・土木学会高校土木教育研究委員会・土質工学会事業部
4. 会 費：1000円(教材は別)
5. 教 材：1) 土質試験法・第1回改訂版(土質工学会発行)44年11月刊行済み 2400円
2) 土質実験指導書・45年改版(土木学会発行)45年3月刊行 340円
お持ちの方は当日ご持参ください。会場でも頒布いたします。
6. 申込方法：希望者は、会費1000円を添え、現金書留に①氏名、②所属官職名、③連絡先住所・電話、④教材の必要、不必要、[1)、2)について、それぞれご記入下さい]、などを記入のうえ下記へお申込み下さい。参加票をお送りします。

160 東京都新宿区四谷1丁目 土木学会事務局編集課

7. 定 員：80名(高校教員優先のため一般は40名程度となります)

8. プログラム：

3月26日(木)	9.25~9.30	開会挨拶	東日本高校土木教育研究会会長	相 川 秀 夫
	9.30~10.00	総括		
	10.00~12.00	土の物理的性質の試験	土木学会高校土木教育研究委員会委員長	箭 内 寛 治
	12.00~13.00	昼食休憩		
	13.00~15.30	土の透水試験 土の圧縮試験	鹿島建設技術研究所	鈴 木 音 彦
3月27日(金)	9.30~11.00	締固め試験 C. B. R. 試験	道 路 公 団	近 藤 正 利
	11.10~12.00	特殊土の試験(関東ルーム)	日 本 大 学	浅 川 美 利
	12.00~13.00	昼食休憩		
	13.00~15.00	土のせん断試験(一軸、三軸、直接)	中 央 大 学	茨 木 竜 雄



昭和32年以来、丸12年ぶりに全面改訂された決定版。36名におよぶ執筆者が、それぞれ得意な分野を手分けして執筆。とくに現場に役立つよう設計施工面に重点をおいて記述す。

B5判 304ページ上製

■定価 2300円

□会員特価 2000円
(〒100円)

郵便番号 160

東京都新宿区四谷1丁目

電話 351-4131(直)

振替 東京 16828

土木学会

土木学会海岸保全施設設計便覧改訂小委員会編

海岸保全施設設計便覧 改訂版

主要目次

第1章 海岸における水理現象

第1節 概論 第2節 波の概説 2.1 波の種類 2.2 波の発達 2.3 波の進行に伴う変化 第3節 深海波 3.1 深海波の性質 3.2 深海風波の推定法 第4節 浅海波 4.1 浅海の進行波の性質 4.2 屈折 4.3 回折 4.4 反射 4.5 重複波 4.6 海底摩擦 4.7 砕波 第5節 波力 5.1 重複波の波圧 5.2 砕波の圧力 5.3 砕波後の波の波圧 5.4 水中の物体に作用する波力 5.5 波力に対する捨石斜面の安定 5.6 波のうちあげ高 5.7 越波量 第6節 潮位 6.1 天文潮 6.2 気象潮 第7節 津波 7.1 津波の発生と伝播 7.2 陸棚上および湾内津波と津波の遡上 7.3 わが国での津波 第8節 流れ 8.1 海流 8.2 潮流 8.3 密度流 8.4 風および波による流れ 第9節 漂砂 9.1 概説 9.2 海岸地形と漂砂 9.3 漂砂量 第10節 飛砂 10.1 概説 10.2 飛砂量

第2章 海岸調査

第1節 気象観測 1.1 概説 1.2 風の観測 第2節 波の観測 2.1 概説 2.2 波高、周期の観測 第3節 漂砂の調査 3.1 概説 3.2 調査法 第4節 土質調査 4.1 概説 4.2 調査法 第5節 流れの観測 5.1 概説 5.2 観測法

第3章 設計法

第1節 概論 1.1 海岸工事概説 1.2 高潮対策 1.3 埋没および侵食対策 第2節 材料 2.1 アスファルト 2.2 鋼材 2.3 矢板 2.4 コンクリート 2.5 木材 2.6 石材 第3節 消波工 3.1 消波工の定義 3.2 異形ブロックの発生 3.3 異形ブロックの安定 3.4 消波工の特長 3.5 消波工の設計 3.6 施工、実施例 第4節 堤防と護岸 4.1 種類 4.2 位置 4.3 のり勾配 4.4 高さ 4.5 構造 4.6 例 第5節 突堤と離岸堤 5.1 概要 5.2 突堤 5.3 離岸堤 第6節 導流堤 6.1 河口閉塞 6.2 導流堤の機能 6.3 配置 6.4 構造と実例 第7節 養浜 7.1 概説 7.2 施工法の種類 7.3 計画上の注意事項 7.4 施工例 第8節 防潮水門 8.1 概説 8.2 計画上の基本事項 8.3 計画および設計指針 8.4 設計 第9節 特殊海岸工事 9.1 概説 9.2 海岸の排水工 9.3 水質の改良保全工 付表 索引 資料広告

国際会議ニュース

(1) —The Ocean World—Joint Oceanographic Assembly

期 日：1970年9月14日～25日

開催地：東京経団連会館

論文提出方法：Title と Abstract を下記に提出のこと。

Title は 1970年4月までに。

東京都文京区本郷7丁目

東京大学地球物理学教室内

日本準備委員会

参加費：20ドル

(2) Fourth Symposium on Earthquake Engineering

期 日：1970年11月14, 15, 16日

開催地：University of Roorkee, India

テーマ ○Structural Response and Design of Structures for Earthquake and Blast Forces

○Design of Dams and Appurtenant Works in Earthquake Zones

○Housing in Seismic Zones and Damage During Recent Earthquakes

○Soil and Foundation Behaviour During Earthquakes

○Instruments for Earthquake Engineering and Seismological Studies

○Seismicity, Wave Propagation and Ground Motion Seismo-Tectonic Studies of Seismic Regions

○Observation of Earthquake Damage and Determination of Isoseismal and Iso-Force Lines

会議用語：英語

論文提出方法：300 words 内の Synopsis を 1970年3月31日までに提出。

論文は 6000 words 内で2部、1970年6月30日までに到着するように。

連絡先および論文提出先：School of Research and Training in Earthquake Engineering University of Roorkee (U.P.), Indiana

(3) Symposium on Man-Made Lakes Their Problems and Environmental Effects

期 日：1971年5月3～7日

開催地：Knoxville, Tennessee, U.S.A.

論文提出方法：Abstract を 1970年5月1日以前に提出。

連絡先：Prof. William C. Ackermann

President

Scientific Committee on Water Research

Illinois Water Survey

Box 232, Urbana, Illinois 61801 U.S.A.

(4) Symposium on Coastal Geodesy

期 日：1970年7月20日～24日

開催地：München, Germany

論 題：○Sea Level Observation

○Mean Sea Level Calculation

○Possible Use of Artificial Satellites in Coastal Geodesy

○Geodetic Problems

Comparison of Mean Sea Level Heights,

Determination of Secular Changes

○Geophysical Aspects

○Business Meeting Concerning the Organizational Basis of Future Work both National and International

登 録：予備登録は下記に

Institute für Astronomische und Physikalische Geodäsie

8 München 2, Arcisstrasse 21

Germany

(5) International Symposium on Stochastic Hydraulics

(確率統計水理学国際シンポジウム)

1) 表記の国際シンポジウムが、ワシントンで開催される AGU 年次国際会議直前の 1971年の春、3日間、アメリカ合衆国ペンシルバニア州 Pittsburgh 大学において開催される。

2) 目的は各分野の科学者、技術者によって水理学の原理に確率統計をいかに応用しているかを明らかにすることにある。

3) 参加者の分野は、農業工学(灌漑排水工学)、流体力学、地球物理学、水理学および水工学、水文学、土質力学 構造力学および構造工学、水資源科学および水資源工学である。

4) 上記の分野に関連した水理学の主題は、底質輸送、乱流、開水路の流れ、多孔性の物質を通る流

れ、流れによって誘発された振動、河川水理学、
等である。

- 5) シンポジウム前刷は、シンポジウムの1カ月前に
登録者に送られる。
- 6) 合衆国以外からの参加者としては、国際的に知ら
れた確率統計の学者が招待され、その旅費の全額
または一部は、シンポジウムより支払われる。
- 7) なお、予定されている共催団体は、IAHR, IASH,
ASCE, AGU, NSF 等である。
- 8) 出席を希望される方は、下記に連絡されたい。
東京都目黒区大岡山 東京工業大学工学部
土木工学科 日野幹雄助教授
(電話：03-726-111)

(6) IAHR Symposium on the topic of "Ice and its Action on Hydraulic Structures"

上記の国際水理学会氷問題委員会による第1回シンポ
ジウムが、1970年9月7~10日アイスランド国レイキ
ャビク市で開かれます。

テーマは、河川と湖沼の氷の分類、氷の学術用語と氷
の測量、熱交換と frazil 氷の生成、表層結氷と流体力
学的効果、解氷と調節、氷による水理構造物と海上構造
物に対する外力、氷のモデル化とその水理工学への適
用、にわたり、参加および論文提出希望者は2月1日ま
でにアイスランド国の S. Freysteinnsson 組織委員長宛
Pre-registration を行ない(連絡先にカードあり)5月
1日までに4頁以内にまとめて提出のこと。

提出先: Prof. Bernard Michel, President of the
Directing Committee, IAHR Ice Symposium
1970.

Civil Engineering Department, Université
Laval, QUÉBEC 10, Canada

連絡先: 北海道大学工学部土木教室 山岡 勲教授
(IAHR 氷問題委員会メンバー)
(電話: 0122-71-2111 内線 3402)

(7) IRF(International Road Federation) による the VI World Highway Con- ference

開催地: Montréal, Canada

開催期日: 1970年10月4~10日

連絡先: Executive Secretary

VI World Highway Conference
Place Bonaventure (Suite 20 Elgin)

Montréal 114, Québec, Canada

会議用語: 英語, 仏語, 独語, スペイン語

すべての論文は、そのまま、上記4カ国語の abstract
をつけて出版される。

なお、会議の前後に特別見学旅行を予定しています。

(8) The Second World Congress of Engineers and Architects in Israel

上記の国際会議がイスラエルの Tel Aviv で開催され
ます。

期日: 1970年12月14~18日

テーマ: "Dialogue in Development-Integration of
Interdisciplinary Planning and its Imple-
mentation in Development Work"

1. Dialogue
2. Integration
3. Modern Development Practice

会議用語: 英語, 仏語, スペイン語, ヘブライ語

費用: I.T.C.C. および Association of Engineers and
Architects in Israel の会員 \$ 60.00
非会員 \$ 70.00
同伴者 \$ 40.00

連絡先: Congress Secretariat

2nd World Congress of Engineers and
Architects in Israel
200 Dizengoff St., P.O.B. 3082
Tel Aviv, Israel

(9) 2nd Conference on Lightweight Structures

標記の国際会議が Scientific Society of Mechanical
Engineers Scientific Society for Building および
Hungarian Mining and Metallurgical の主催で行なわ
れます。

期日: 1970年8月3~4日

開催地: Székesfehérvai, Hungary

- テーマ: 1. Theory, constructional and technological
principles of lightweight structures
2. Operation of lightweight structures, and
the experiences of users
3. The economy of lightweight structures

上記のテーマについて講演と討議が行なわれます。論
文の申込みは、すでに締切りとなりましたが、参加は受
けつけていますので、希望者は、5月1日までに申込ん
で下さい。

申込先: Scientific Society of Mechanical Engineers
Budapest, V., Szabadságter 17, Hungary

会議用語: ドイツ語, 英語 (ロシア語)

参加費: 参加者 40.00 ドル

同行者 10.00 ドル

(10) International Symposium on Digital Computer Applications in Engineering

標記のシンポジウムが開催されることになり, 論文と参加者を募集しております。

期日: 1970年10月14~17日

場所: トルコ, イスタンブール工業大学会議室

テーマ: ○ Structure of the computer programs

○ General purpose computer programs and program systems

○ Related algorithms

○ Preliminary work dealing with the conversion of a problem feasible for the computer solution

コンピューターに関する問題点に重点

論文提出方法: abstract (500 words 以内) を2部4月1日までに提出。

本論文は, 長さに制限はないが, 発表時間は15~30分となる。

5月15日までに提出。abstract 論文とも英語。

会議用語: トルコ語, 英語

参加申込締切日: 1970年6月1日

連絡先: Mr. F.A. Akyüz, Secretary I.T.Ü. Hesap Merkezi (Computer Center) Taşkişla 114, Istanbul, Turkey

(11) Centenary Conference on Port & Harbour Management

Commissioners for the Port of Calcutta の100年祭事業の一つとして, 標記の国際会議が開催されます。

開催地: Lecture Theatre of the Institute of Port Management, Calcutta, India

開催期間: 1970年10月19~21日

テーマ: 1. Port Resources, Development, Effect on Economy

2. Changes in Methods of Cargo Handling

3. Marine, Navigational and Engineering Features for large draft vessels

4. Recent Development in Ports and Harbours Facilities

5. Inland Water Transport

6. Development and Maintenance of Navigable Channels in Estuaries and Coastal Areas

論文: 上記のテーマに関し未発表の論文を募集いたします。希望者は, 3月15日までに200 words 以内の abstract を提出してください。本論文は, 4000 words 内で, 5月15日が期限です。

会議用語: 英語のみ

予備登録: 1970年8月15日まで

問合せ先: Organising Secretary I.P.M., 20 Garden Reach Road, Calcutta-43 India

◎水質汚濁研究会 (JWPR) および国際水質汚濁研究会 (IAWPR) 会員募集

隔年ごとに開催されております国際水質汚濁研究会は, 1964年東京大会以来ますます盛況になり, 1965年IAWPRが設立され, わが国へも正会員としての加盟方要請が再三ありました。

しかしながら, わが国にはまだ水質汚濁に関する学会がないため加盟が遅れており, せっかく優秀な研究実績をもちながら, それが国際的に十分理解されていない等, 何かと不利益な点が少なくありません。今回, IAWPRに加盟することの目安が付き, 目下諸手続を進めておりますが, 今後水質汚濁に関する研究を活発化するためには, IAWPRの日本国内委員会の性格をもつ水質汚濁研究会を設け, この分野に興味をもたれる方々の積極的なご参加を得て, 国際間の交流を強化する必要が痛感されますので多数の方々の水質汚濁研究会にご加入下さいますようご案内申し上げます。

1. 業務: ① IAWPR 理事の選出, ② JWPR 国内運営委員の選出, ③ 国際水質汚濁研究会へ提出する論文の選択, ④ 国際技術交流の促進および情報活動, ⑤ 国際水質汚濁研究会出席へのあっせん, ⑥ その他

2. 特典: ① IAWPR 機関誌 (Water Research) の入手, ② 国際水質汚濁研究会出席への便宜, ③ 国際諸情報の入手, ④ JWPR 会員名簿の入手, ⑤ その他

3. 年間会費:

① 正会員 500米ドル (日本下水道協会が加盟負担)

② 準会員 50000円 (日本下水道協会へ払い込み)

③ 個人会員 8000円 (同上)

注) 準会員費 100米ドル, 個人会費 20米ドル相当分は IAWPR 会費にまた残額は事務雑費に充当の予定。

4. 加入申込先:

(〒102) 東京都千代田区平河町2の6 (麴町会館)

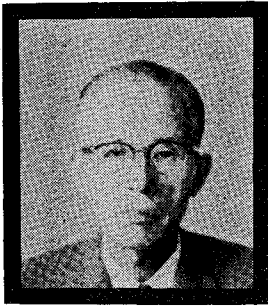
社団法人 日本下水道協会内

水質汚濁研究会設立準備会

水質汚濁研究会設立準備会

代表 東京都立大学 左台正雄教授

故 名誉会員 鈴木角一郎氏をしのぶ



畏友鈴木角一郎さんは永年お住いになった奈良県富雄から東京都のお宅に移られましてから静かに晩年を送っておられました。最近病を得て昭和45年1月30日信子夫人や御息初め御家族のお手厚い看護の効もなくなついに77才の生涯を閉じられましたことは誠に痛恨の限りであります。

さて鈴木さんは明治25年のお生れで、大正6年九州帝国大学土木工学科を卒業されてから翌年3月近畿日本鉄道の前身である大阪電気軌道株式会社に入社されてからその生涯の大部分を同社に勤続せられ主として大阪でお過ごしになりました。まず最初の10年余りはこの会社に勤められ同社が新たに大阪から直接伊勢神宮に通ずる参宮急行電鉄を新設するに当り、その技術課長として同社に出向せられ、あの長大な青山隧道などの難工事を首尾よく完成せられまして同社が大阪から三重県や名古屋方面にその勢力圏を拡張する足掛りを築かれたのであります。かくして当初、大阪、奈良間の大阪電気軌道会社が昭和19年に近畿日本鉄道株式会社と改名されました。このように会社の線路が増設延長、大改良せられて今日、日本における私鉄中、最高の資本金をもって最長の線路を経営する大会社に発展を遂げた基礎となる各種の大事業は、ことごとく鈴木さんが手掛けてこられたのであります。

その間鈴木さんは同社の大阪営業局次長や上本町営業局長などの要職を履任されまして昭和22年同社の取締役にまた同23年には常務取締役へと栄進せられ、昭和28年後進に道を譲られるまで実に35年の永きにわたって勤続せられました。このように鈴木さんは、技術方面のほか、事業の経営に対する才能を買われまして近鉄の重要な傍系会社である近鉄タクシー、奈良交通など規模の大きいバス事業にもたずさわられ、これらの各社長を兼任せられまして晩年には国鉄天王寺駅の大改築の際、設立されました天王寺ステーションビルの社長としてその建設に従事されおおよそ10年間、この会社の経営にも当ってこられたのであります。今日これらの傍系会社はいずれも所期の通り繁栄して親会社の経営に少なからず寄与しておるのであります。

鈴木さんの会社における経歴はおおよそ前述の通りであります。その間私鉄に関係のある各種団体の役員をも兼ねられました。すなわち、昭和25年関西鉄道協会の技術委員長、昭和28年度には土木学会関西支部長また、同32年から34年まで奈良県バス協会会長としてこれら、学会や業界の運営発展に力を尽されたのであります。

このように会社に対してはもちろんのことわが国運輸事業界に大きく貢献せられましたため昭和43年11月には、これらの功績が認められ勲四等に叙せられ瑞宝章を授与せられる榮譽に浴せられるに至りました。また、昭和38年には土木学会に対する多くの功績をも認められまして、その名誉会員に推挙せられたのであります。

鈴木さんは元来非常に勉強家に関連事業の関係法規や諸規程などを平素仔細に研究せられまして、関係諸官庁と業務上の諸問題を討議する会議などには必ず出席せられ席上、業者を代表して当局に対し力強く陳情するなり、傾聴に値する種々の質問を寄せられるなど常に熱心に論議を戦わして、もし意見に相違する場合は納得のゆくまで容易に引き下りせず、どこまでも追求せられました。そんな時はあたかも野武士といった風半の鈴木さんであったことが私の記憶に残っております。

このように鈴木さんの人となりは非常に厳格な半面人に接して誠に暖味のある野人といった感じの方で人つき合いもよく大変親しみのもてる人柄でした。

実は私は鈴木さんと同年輩で大学も私は京都でしたが同じく土木科の出身で勤め先も鈴木さんは近鉄、私は阪神電鉄と同じく同業者の間柄で種々の会合でしばしば出あっておりましたので、ここに述べました通り鈴木さんの追憶は今でもまざまざと蘇ってくるのであります。

そんなことで先刻関西支部から鈴木さんを偲ぶ文を乞われました際、むしろ近鉄におられる後輩の土木の方々が適任ではないかと申し上げたのであります。あえて私を指名されましたので誠に簡単かつ拙ない追悼文ではありますが故人をしのびあわせて御家族の御愁傷に対し深く哀悼の意を表する次第であります。

終りに鈴木角一郎さんの御冥福を衷心からお祈り申し上げて筆を措くことにいたします。

(名誉会員 阪神土木工業株式会社社長 泉谷平次郎・記)